

茨城県の景気判断を据え置きました
～茨城県経済は、緩やかに回復しつつあります～

みなさん、こんにちは。いつも、このサイトをご覧くださいありがとうございます。私どもでは、茨城県における最新の金融経済情報を提供しております。公表されている指標は実態としては数か月前までのものですが、日銀水戸事務所作成の茨城県金融経済概況公表日の前営業日までに、企業等から聴取した情報も踏まえて判断しております。この紙面では、県内景気判断の背景となった考え方などを、簡潔に、可能な限りわかりやすく解説しますので、どうぞご利用ください。

3月7日に公表しました茨城県金融経済概況では、県内の景気情勢を、生産面に弱い動きがみられるものの、基調的には「緩やかに回復しつつある」として、判断を据え置きました。24か月連続です。

個人消費についてみると、一部に弱さがみられるものの、基調的には底堅さを維持しています。1月の百貨店・スーパー販売額は、3か月振りに前年比プラスとなりました。暖冬の影響が、なお、尾を引く下で、バッグや帽子等の身の回り品が好調であったほか、福袋等の初売り商戦もますますであったためです。この間、2月の新車登録台数については、軽自動車税引き上げ後の反動減が続く下で、このところ持ち直しつつあった普通・小型車が、5か月振りに前年を下回りました。これは、一部メーカーにおける工場操業停止の影響によるものであり、一時的なものとも見ています。

住宅投資については、1月の新設住宅着工戸数は、3か月連続で前年を下回りました。持家についてはますますの動きとなっていますが、分譲、貸家系ではやや勢いが鈍化しており、全体の評価は、持ち直しの動きが一服していると判断しています。マイナス金利付き量的・質的金融緩和のスタートにより、住宅ローン金利は一段と低下しています。先行き、住宅投資が持ち直してくることを期待しています。

公共投資については、先行指標の公共工事請負金額が、県、市町村の本年度発注の本格化もあって高い水準となりましたが、国、独立行政法人が前年比でみると減少しているため、3か月振りに前年割れとなりました。もっとも、ここ数か月の動きを均してみれば、「下げ止まりつつある」との判断に変わりはありません。

この間、生産面についてみると、3か月振りに、小幅ながら指数は低下しました。新興

国向けを中心とした輸出の減少等から、生産用機械、鉄鋼等を中心に弱めの動きが続いています。

わが国の景気は、緩やかな回復を続けていますが、年明け以降、原油価格の一段の下落に加え、中国をはじめとする新興国・資源国経済に対する先行き不透明感から、金融市場は世界的に不安定な動きとなりました。こうした動きを踏まえて、日本銀行は、2月16日より、「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」をスタートさせた結果、市場金利、預金・貸出金利は一段と低下しています。

こうした環境変化を踏まえ、家計の消費、住宅投資行動に変化がないか、企業マインドや設備投資スタンスに影響を与えていないか、また、弱めの生産水準が、県内経済の前向きな循環メカニズムに影響を与えていないか、3月調査の短観やヒアリング等により、確認していきたいと考えています。

2016年3月7日
日本銀行水戸事務所長
鶴屋 洋一郎